

2014.7月

品質月報

Monthly Quality Report

7月号 INDEX

7月号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

★ 今月のテーマは…
「ワールドカップ ブラジル大会」

PAGE 5 ……今月の品質状況

市場不良率推移

PAGE 6 ……品質状況詳細

市場不良発生状況(工程別、客先別)

PAGE 7 ……品質状況詳細

クレーム発生状況(クレーム発生推移、客先別)

PAGE 8 ……活動報告

『会議体の考え方』



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日
サンシングループ
代表 石井宏宗



石井宏宗

今月のトピックス

「ワールドカップ ブラジル大会」



2014年ワールドカップ ブラジル大会は、ドイツ優勝で幕を閉じた。少し視点を変えて今大会を振り返ってみると、ブラジルがサッカーのワールドカップ(W杯)を初めて開催した1950年に比べると大きく様変わりした。ただ、64年経過してもほとんど変わっていない面がある。当時と同じように今回も、ファンの盛り上がりには匹敵するほど予定通りの日程と予算の範囲でスタジアムを建設できない当局の不備が際立っている。今大会の開催都市は12で、開催費用は少なくとも280億レアル(約1兆2700億円)。そのほぼ3分の1が、スタジアムの新設・改修に充てられる。12会場のうちブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロの3競技場は、それぞれ10億レアル以上かかる計算だ。また予定通り完成したのは12会場中2つのみ。1950年の大会では、リオデジャネイロの「マラカナン」を含む6会場で開催された。「1950: The Price of a World Cup(原題)」の共著者ディエゴ・サルガド氏によるとマラカナンは2年以内に完成し、現在の貨幣価値に換算すると建設費用は4億3000万レアル。サルガド氏は50年大会の総予算の9割以上が、マラカナンの建設に充てられたと指摘。同スタジアムの建設開始は予定より数年遅れ、費用も予算を上回ったという。「64年経ったが、当時起こったことを再び目の当たりにしている」。サルガド氏はロイターにこう話し「突貫工事のため、コストが膨らんだ。そしてマラカナンのこけら落としは、本番の7日前だった」と説明した。

<設計～量産導入>

製造の基本である「品質、コスト、納期」

これらについては、どれが優先するわけではなく全てを満足するべく物事に取り組まなければならない。ただ、最近は、納期を優先している事例を多々見受けられる。

こうした場合、必ず品質とコストが犠牲になる。この事を無くす為にも各自が下記の事を再認識して業務に取り組む必要がある。

段取り

<仕事の段取り5W1H>

When(いつ)、Where(どこで)、Who(だれが)、What(なにを)
Why(なぜ)、How(どのように)

要因分析

<品質管理の基本である5M>

Material(材料)、Machine(機械)、Method(方法)
Man(人)、Measurement(計測)

行動

<製造の基本である3現主義>

現場、現実、現物

管理

<管理>

品質管理の基本は、ロット管理と変更管理。

<当り前のことを当り前にやる>

このことが一番大切であり、最も難しいことである。

これを継続していくには、「個人の意志」が最も大事である。

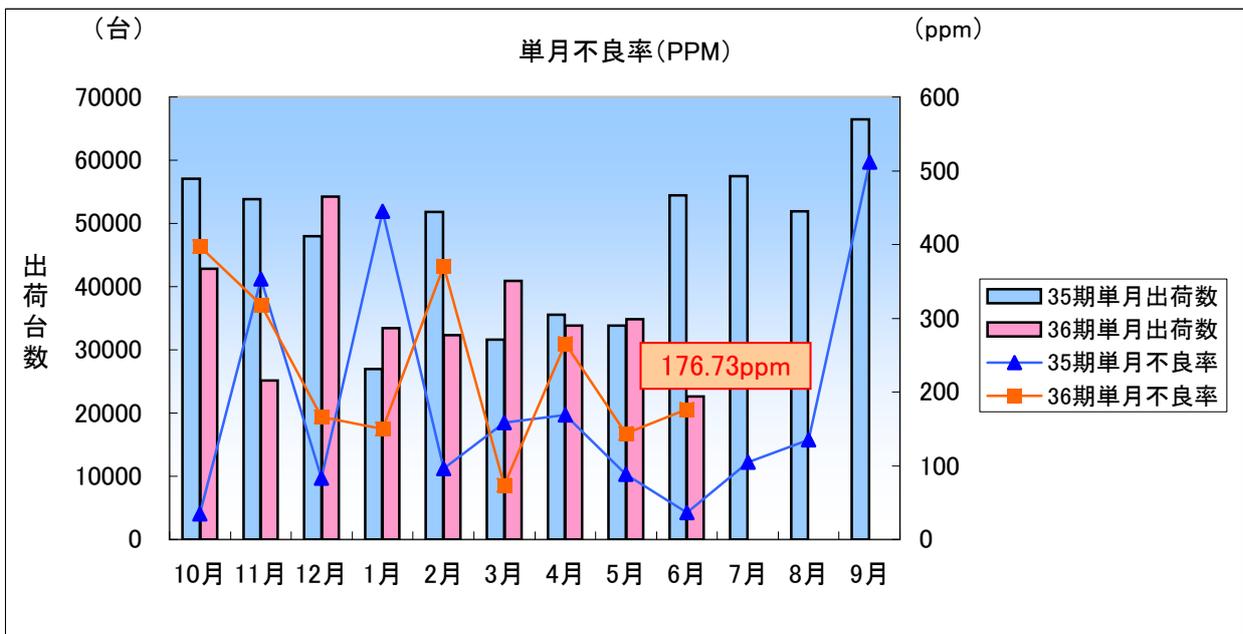
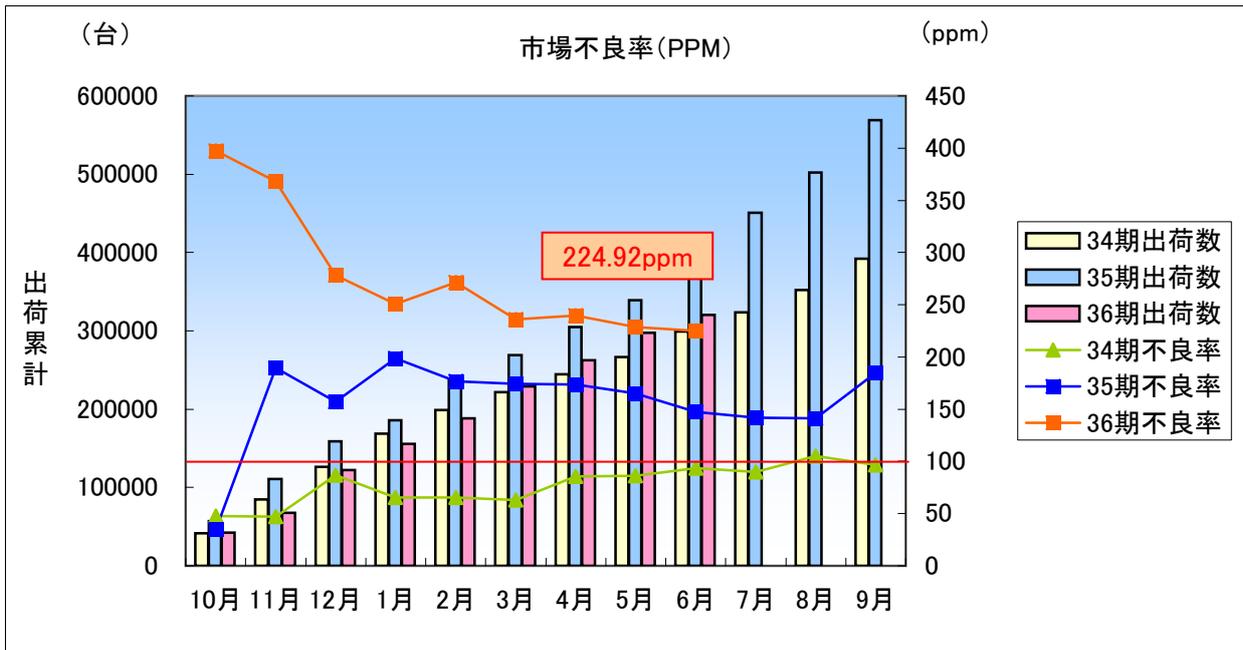
今月の品質状況

36期の旗印

納入不良率 目標.....100ppm

36期の5月終了時点の不良率は**224.92ppm**です。

12月以降、不良率は少しずつよくなっていますが、ほぼ横ばい状態といった状況です。
 市場不良累計は 72件（その他 MOSFET 173件）
 目標100ppm達成が厳しい状況ですが、目標に少しでも近づけるように協力願います。

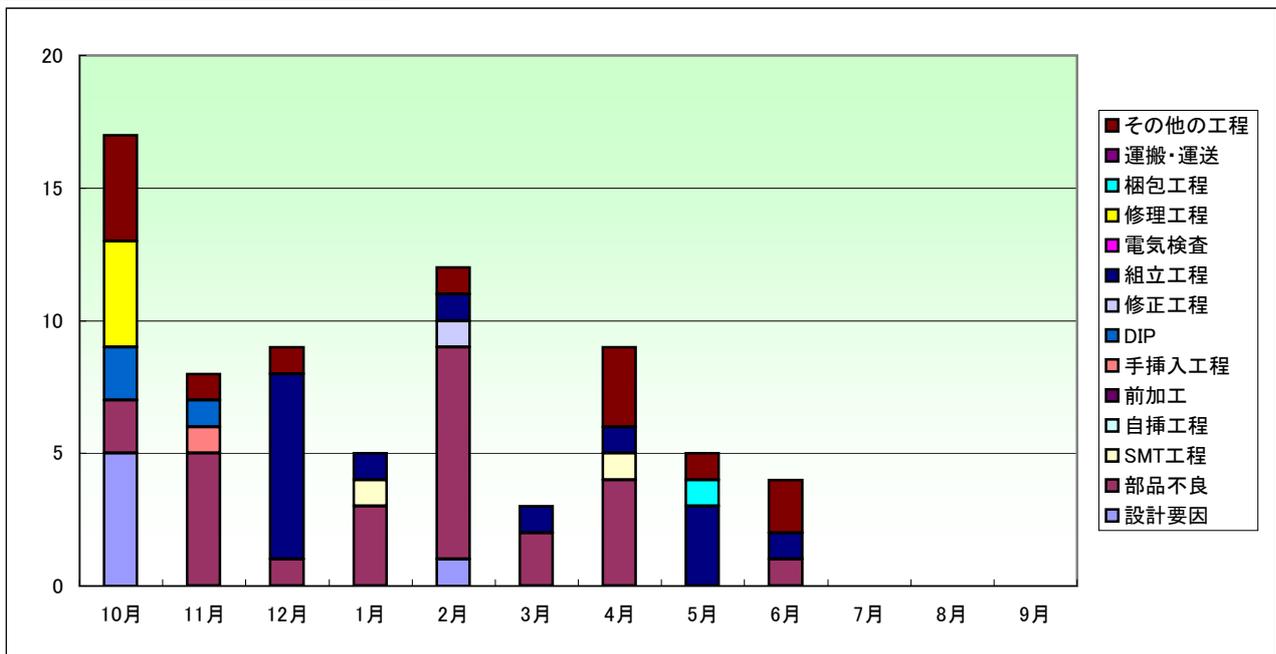


6月の単月不良発生率は4件発生で 176.73ppm です。
 製造不良 1件、その他 2件、部品不良 1件
 部品不良はMOSFET不良8件を除いています。

品質状況詳細

原因別、並びに工程別市場不良発生状況

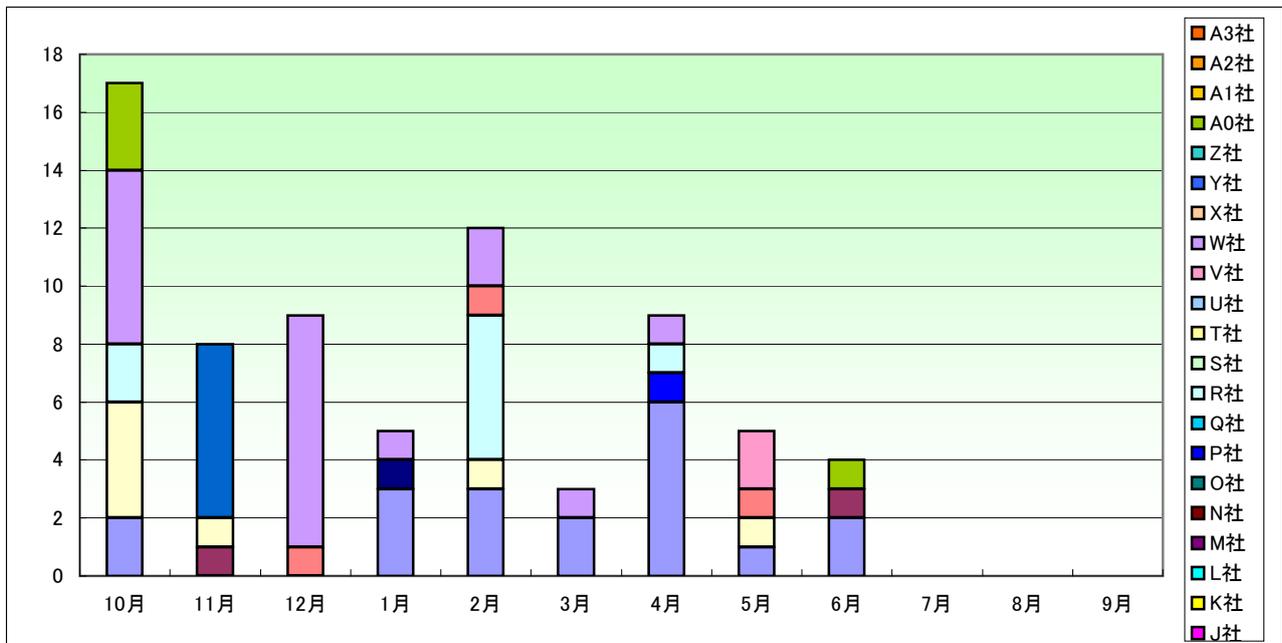
工程別不具合



6月までの工程別不具合

部品不良 26件、組立工程 15件、不明 13件、設計要因 6件、修理工程 4件
不明(再現せず)の不良の返却が毎月あり、原因を調査中です。

客先別不具合



客先別累計不良発生率

W社	19件/5,854台	(3246ppm)	変化なし	A0社	4件/1,500台	(2667ppm)
V社	2件/1,998台	(1001ppm)		A社	19件/31,348台	(606ppm)
I社	1件/1,800台	(556ppm)		G社	6件/11,016台	(545ppm)

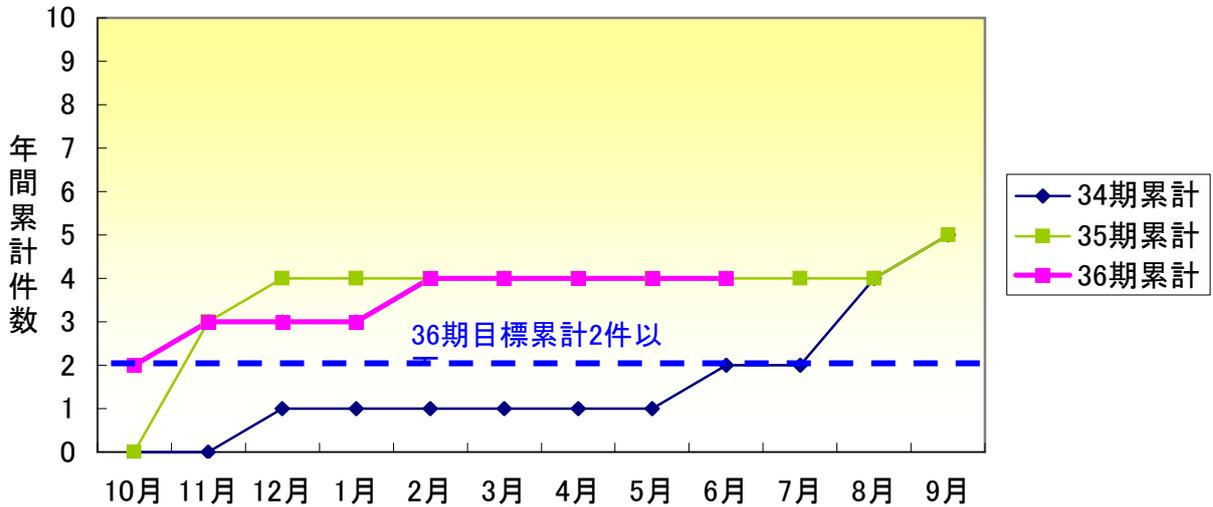
品質状況詳細

クレーム発生状況

クレーム発生推移

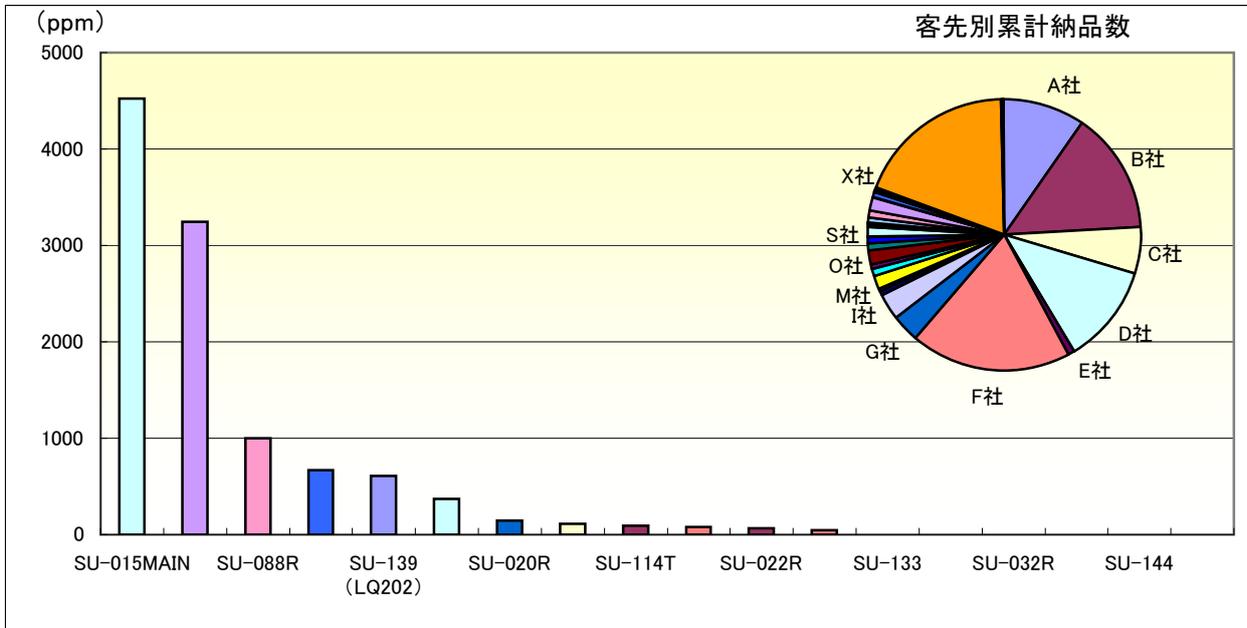
「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移(36期)



クレーム不良合計4件。
6月クレーム不良は発生しませんでした。

機種別累計不良率



機種別累計不良率(不良率ワースト5)

機種	客先	不良数/納品数	単機種不良率
① → SU-015MAIN	(R社)	1件/221台	4525ppm
② → SU-082SE	(W社)	19件/5,854台	3246ppm
③ → SU-088R	(V社)	2件/1,998台	1001ppm
④ → SU-086R	(Y社)	1件/1,500台	667ppm
⑤ → SU-139	(A社)	19件/31,348台	606ppm

「会議体の考え方」

どの会社でも会議と名のつくものは存在しますが、それが果たして意味のある会議なのか時には、疑問を持つ人も少なくないのかも知れません。そこで、会議を進めるうえでの要点をまとめてみましたので、今後の参考にしてください。

■会議

参加者は、何かを学ぶ(改善プロセス、考え方、観方等)。
リーダーは、情報収集と知識の深堀をし、3現を知る。



【会議の進め方】

＜会議目的を明確にする。＞

①情報伝達の会議

参加者が持っていない知識や情報をリーダーが伝達

②指導の為の会議

結論は出ているが、リーダーはそれを伏せておき、参加者から情報や意見を求め、結論を同じものに到達させる。

③探求の会議

問題点について、情報や意見を求め、その情報や意見を活用し改善へ結び付ける。

④問題解決の為の会議

参加者の情報や意見の交換により、問題についてどうすべきか結論(対策)をまとめる。

＜時間＞

会議ボリューム、重要度により変化する。

①設定のタイミングは適切か。

参加者が議論するだけの情報や意見を持っているか。

②集中的に議論するには、原則的にMax1時間とする。

＜出席対象者＞

会議目的により厳選し最小人数でとり行う。

①議事進行担当を明確にする。

原則的には、会議の主催者側が議事進行をする。

②誰に伝えたいのか。いつまでにどうするのか。どうしてほしいのか。

主催者は、意志が振れない様にする。

＜まとめ＞

会議を意義深く効率的に進めるには、主催者側が意志、意向、結論を予め決めて会議に臨む事も大事なことである。

■余談

タイムマネジメント(時間管理)

個人に与えられた業務は決められており、それを如何に効率的に進めるかはその個人の進め方次第。

POINTは2つです。

①業務の2Sをすることです。

②業務の優先順位をつけることです。

この2つが出来れば、あとは個人でスケジュールを作成するだけです。

皆さんもやってみては如何ですか。